

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2991600038		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	グループホーム カノンの扉		
所在地	奈良県生駒郡斑鳩町阿波3-11-6		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2991600038-006&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2991600038-006&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良県奈良市高天町48番地6 森田ビル5階		
訪問調査日	令和4年1月18日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者本人が自分で出来ることを減らさないように支援している。  
 ・食事について、温かいものは温かく、冷たいものは冷たく、食事が美味しく、楽しみになるよう工夫している。  
 ・看取り介護において、スタッフ全員がその方の終の住処としてその方らしい最後を迎えられるよう、日々がその方にとって充実した一日になるように支援している。また「看取る」ということはとても尊い事をさせて頂いているという意識を持ち日々の介護に努めている。外国人スタッフも文化の違いを有効に活躍できる場を創っている。ICT事業の取り組みを始め、スタッフ一同チャレンジしながら業務の簡素化、ケアの充実に取り組んでいる

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR法隆寺駅のすぐ南の住宅地にあり、建物は鉄筋造り2階建てで1・2階部分にグループホームがある。玄関を入ると居間兼食堂があり、さらに奥へ廊下があって居室が並んでいる。食事は、冷蔵庫に買い置きしてある食材から、職員が交代で手づくりしており、利用者も準備や片づけをできる範囲で行っている。外国籍の介護士が、お国料理を提供することもある。天気の良い日は、近くの公園や神社に散歩に出かけている。また、同法人の別のグループホームへ車で出かけ、広い敷地を散歩したりお茶を飲んだりして交流している。事業所の名前のカノンは「暇暢」と書き、利用者が持てる力を発揮しつつ、ゆっくりのんびり笑顔で過ごせるよう努力している事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフが見える位置に掲示し、1日1回朝の申し送り時に出勤しているスタッフ全員で声に出して読み上げている。	事業所の5つの理念が、パンフレットに記載すると共に居間の壁に貼られている。事業所の名前のカノンは「暇暢」と書き、ゆっくりのんびりという意味である。夕食後の時間を各自のんびり過ごしてもらえるよう支援している。また、利用者の笑顔と笑いを引き出せるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回程度、当施設の1階で「認知症カフェ」を開催し、認知症についての相談会などを実施 なお、本年は新型コロナウイルスの影響で開催を控えている。	近くの公園へ散歩に出かけたとき、地域住民とあいさつを交わしている。事業所で認知症カフェを開催し、来られた方と交流している。また、地域の小学校で認知症サポーター養成講座を実施している。	近隣の自治会は規模が小さく、事業所は自治会に加入できていないが、引き続き地域との基盤作りを続けられることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと地域事業所、チームオレンジやキャラバンメイトに参加し啓発活動やサポーター講座を一緒に行っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者さんの普段の生活、イベント、研修内容などをスライドで見て頂き当施設の取り組みやサービスの報告、参加して頂いた方々からの質問や意見を取り入れる場としている。新型コロナウイルスの影響で家族やメンバーには書面の送付という形で報告している。	コロナ禍前は、町職員又は地域包括支援センター職員、民生委員、家族などが集まって、2か月に1回開催していた。コロナ禍で、みんなが集まるのができなくなり、令和3年は4回開催し、報告書を町役場と地域包括に提出した。	8月以降運営推進会議が開催されていない。コロナ禍の終息が見通せない中で、運営推進会議をリモート開催するなど工夫が望まれる。また、家族アンケートによると、外部評価結果を見たことがないという家族が半数以上おられたので、外部評価が確定したらその結果を家族に送付すると共に、運営推進会議などで評価結果をもとに話合われることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症キャラバン・メイトとして、サポーター講座・ステップアップ講座の参加とホームを講習の場として活用してもらい認知症の方と会話や対応を行ってもらった。	町の担当課からは、コロナウィルス感染症予防の対策やマスク等の支援物質が届けられている。また、町や地域包括支援センターと連携して、認知症キャラバンメイトや認知症サポーター養成講座、認知症カフェに取り組んでいる。地域との基盤作りについて、意見や協力を得て前進することを期待する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、定期的に研修を行い、ホームでの具体的な支援の事例を活用したりして、正しい理解を共有できるような取り組みを行っている。	職員研修を行って、身体拘束だけでなく、拘束につながる言葉遣いについても再確認している。過去に強く皮膚をかく利用者に、ミトンの手袋を使用したことがあるが、現在はない。玄関及びエレベーターは、安全のため電子ロックがなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、研修で虐待の理解を各自に考えてもらえるよう行い、ホームでの具体的な支援の事例を活用したりして、正しい理解を共有できるような取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されている入居者がおられるので、後見人の方との対応で勉強させてもらっている。また、家族から相談があり、地域の行政書士様と相談させてもらうなどを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時、重要事項説明書及び契約書の説明を行い、疑問点があれば質問してもらい説明を行って理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や地域運営推進会議、認知症カフェなどで意見や相談などを受け付ける機会を設けている。家族の方にボランティアでレクレーションに来て頂いて一緒に援助させてもらう機会がある。	利用者と家族の面会は、玄関ホールで短時間に行えるようにしており、その時に家族から要望等を聴けないときは、電話で聴いている。できれば定期的にお話を聴く機会を特別に設け、感染対策をして直接会うか、電話やWeb等を使って、より積極的に意見を聴くことができればさらに良いと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内会議や昼休憩など随時話をする機会があり、意見などを受け付けられる環境がある。	職員自身が講師として、月1回研修会を実施しており、直接意見を述べたりする機会がある。昼食後のカンファレンスで、職員は気付いたことを述べている。職員の意見を反映し、コロナ禍での休息場所が密にならないよう部屋を分散した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が仕事にやりがいを持てるよう強みを生かし、実践してもらっている。各職員の働き方やライフスタイルに合ったシフトを組むよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体研修で社外から講師を招き、様々な知識を勉強できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ソフトバレーボール活動を月に1回開催し、同業者と交流の機会がある。地域事業所の会合にも参加し情報の共有などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時に本人と同席で聞かせてもらったりする場面はほとんどない。事前の関係づくりは出来ていない。事前情報の中で本人の安心できるポイントをしっかり理解し、家族と一緒に入居時のお互いの不安をできるだけ軽減できるよう務めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約前、契約時に家族と話し合う時間を設けて、希望、要望などを聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に入所後も他のデイサービスを利用できる旨を伝えるなど、デイサービスを利用できる環境を整えており、本人が必要としているサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いに生活を共にする関係や助け合う関係を持ちながら支え支えられ職員は命を支えるケアにも視点も起き安心される関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や面会等で交流の機会を設け、本人の状態を連絡し対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症カフェでは、地域の方や馴染みの方との交流の時間にしたりしている。	コロナ禍で、馴染みの場所に出かけにくい状況にある。家族の面会は、玄関ホールで短時間にできるよう支援している。携帯電話を所持している方もいる。お正月に年賀状が届く方や、自宅に帰られた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活の場面で、個々の力や希望などを活動がしやすい場面での人間関係などをよく考え、席の配置や役割の内容などその方の力に合わせる事で共に生活を支え合う関係ができています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談などがあり介護保険サービスの説明、イベントへの招待など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所後の本人の様子を見ながら、カンファレンスを度々行い、本人の希望や意思に沿った介護が行えるようにしている。	利用者ごとに担当職員を決め、日々の利用者の言葉や表情などから思いの把握に努めている。毎日、昼食後職員が集まって30分間カンファレンスを行い、利用者の状況や思いを共有している。アセスメントシートの「私ノート」をつくり、利用者の写真を張って、まわりに思いや意向を記録し、私らしい生活を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に面談を行い本人、家族から話を聞くようにしている。また、アセスメント、フェイスシートを作成し情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各職員で様子や状態を観察し、知り得たことを私シートとして作成し本人の能力など把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者担当者に対して、アセスメントなどを一緒に考えるなど随時行っている。	利用者の暮らし方の希望に配慮し、介護計画案を作成して家族に送付し、意見を求め了承を得ている。モニタリング結果を参考に、1年ごとに更新している。利用者の健康状態を維持し、持てる力を十分発揮して笑顔が引き出せるよう努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の状況を記録したケア表やカンファレンスシートを活用して、個人の体調や心身の変化について検討し必要があれば介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や外泊などのその時々に必要な支援。看取りにおいてはお別れの会などを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は地域参加などが出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診(在宅医療)で健康管理を行っている。訪問看護師も同席してもらっている。	現在、事業所の協力医と利用者全員契約しており、月2回訪問診療がある。歯科医も月2回訪問し、眼科医も3か月に1回訪問している。また、看護師が週1回訪問し、細かな健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護センターと契約をし、24時間対応できる環境を整えている。また毎週看護師が訪問してもらい小さな変化にも対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者情報(認知症状については特に本人の特性)を共有してもらうことで、入院のリスクを理解してもらうような働きかけを家族と一緒に行うように努め、できるだけホームで在宅医療ができるよう主治医にも働きかけていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、終末期のあり方については必ず聞くようにしている。事業所として、終末期介護、看取りについて説明を行い、お別れの会、出棺を行った事例などをみせたりして説明を行っている。	利用開始時に事業所の看取りの指針を利用者や家族に説明している。利用者が重度化したときには、事業所のできることを説明し、看取りの意向伺い書に署名を頂いている。事業所でも葬儀を行い、利用者も参列してお見送りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変が予想される場合や事故発生時についての話し合いを行い、緊急対応マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設消防計画に基づき行っている。	年2回、避難訓練を実施している。内1回は、夜間想定で行っている。利用者も口にハンカチを当てて、避難訓練に参加している。水と食料は、1週間分備蓄している。オール電化であるので、災害に備え発電機も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の入浴、排泄時などにはプライバシーに配慮した声かけ介助を行っている。	トイレとお風呂の入り口には、カーテンも付け、扉を開けても直接中が見えないようプライバシーに配慮している。トイレ誘導の時も、利用者に合わせ声掛けの方法を工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望を普段の関わりの中で見出し、いけるよう心掛けて自己決定が行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事等際には参加されるかどうかを尋ねている。また入居者一人一人のペースを尊重し思いのままに生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時には自分で服を選んで頂いている。また自分で選ぶのが難しい方にはスタッフがともに選ばせて頂くなどそのひとらしい身だしなみが出来るよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嗜好や季節に合わせてメニューを作り、魚をさばいたり、個人の力を発揮できるようにしている。準備や片づけなどもできることをしながら、役割分担が自然な形でできている。	食事は、冷蔵庫に買い置きしてある食材から、職員が交代で手作りしており、利用者も準備や片づけをできる範囲で行っている。外国籍の介護士がお国の料理を提供することもある。玄関前の屋根付きスペースでバーベキューを行ったり、利用者の誕生日にはケーキを手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量など個人に合わせて提供し必要があれば毎週訪問看護師に相談など行い提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯洗浄など個人の能力に合わせた介助を行っている。週に1回、訪問歯科による治療や口腔洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し個人の排泄パターンを把握して適切なタイミングでトイレ誘導を行えるように努めている。	排泄パターンを細かく記録し、次の排泄時間を予測してトイレで自然な排泄ができるよう支援している。利用開始時におむつを付けていた方も、布パンツやリハビリパンツで過ごせるようおむつ外しに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘状況を把握し、水分量などの配慮を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間は決めているが、要望があればその都度変更し柔軟に対応することで個々にあったサービスを提供できるよう努めている。	浴室には、リフト付きの個人浴槽が設置されており、車いす利用者も浴槽へ入りやすい構造になっている。脱衣場が広く、脱衣場からも直接トイレを利用できるよう設計されていて便利である。利用者が週2・3回入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の心身の状態に合わせて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、往診時には職員が立会い薬についての説明を受けている。また処方箋を綴り内容を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の力量に合わせ、役割を見出し、趣味なども日々の関わりの中で見つけ楽しみを持って行ってもらえるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見会などホーム外へ出かける機会を作っている。 なお、毎年行っていたバスツアーは、新型コロナウイルスの影響で本年は控えている。	天気の良い日は、近くの公園や神社に散歩に出かけている。玄関前の屋根付きスペースや2階のベランダに出て、外気浴をすることがある。また、同法人の別のグループホームへ車で出かけ、広い庭でコンサートや花見、昼食を共にして交流している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は持って頂かないようにしている。必要がある場合には家族と相談して対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が携帯電話を持ち随時連絡されている。他の方も希望があればその都度対応させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所以外も職員が清掃し清潔を保っている。また季節に合わせた飾りつけなどを行い、季節を感じていただけるように工夫している。	玄関前には屋根付きの広いスペースがあり、バーベキューなどに使われている。1階の居間兼食堂は広く、イベントや研修にも使われている。居室は、廊下に沿って細長く配置されている。2階にはベランダがあり、気軽に外気浴をすることができる。また、事業所内には犬や小鳥が飼われており、利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やフロアへの出入りが自由に行えるよう配慮したり、必要に応じて席替えや家具の配置換えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた私物を持ち込み、変化を軽減し本人らしい生活に近い環境づくりをしている。	居室には、エアコンとクローゼットが設置されている。利用者は、使いやすいベッドや筆筒、お気に入りの机やいす、テレビなどを持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が移動しやすいよう手すりや家具の配置を工夫している。また居室には名前を付けてわかりやすいようにしている。		